横手駅東口市街地再開発事業による公益施設の整備について

平成３１年３月
横手市

昭和50年頃のJR横手駅前

駅から東側を望む

駅舎の完成を祝う人々

現在とほぼ同じ建物風景

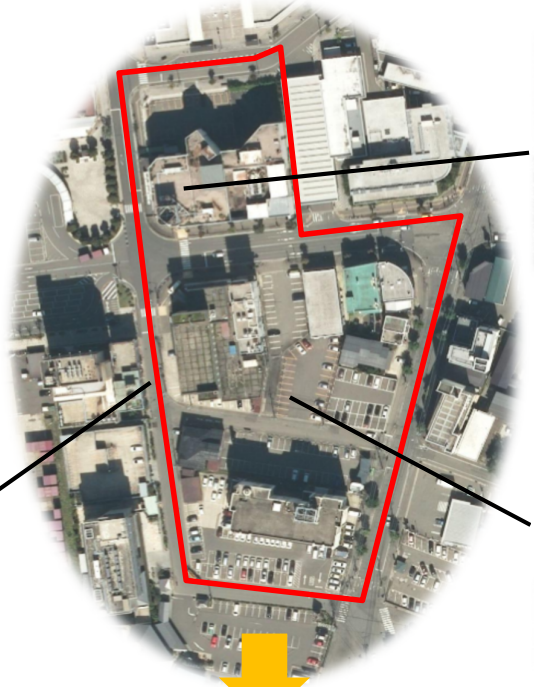
平源写真館付近から駅方向を望む

昭和50年頃
横手駅舎の竣工や駅前広場の造成
大型商業施設の開店により横手駅前は市の中心市街地として活気にあふれていた

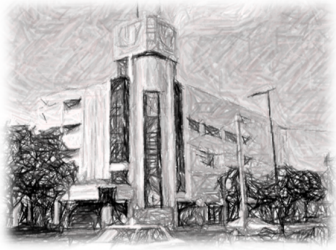
再開発検討区域の現況

地区概要

区域面積	：	約1.7ha
権利者	：	25名
建築物	：	16棟
延床面積	：	約1.6ha



空きビル



狭く歩きにくい道路

老朽化したビル

にぎわいや魅力が感じられず、街なかの再生が必要

民間が主導する市街地再開発事業

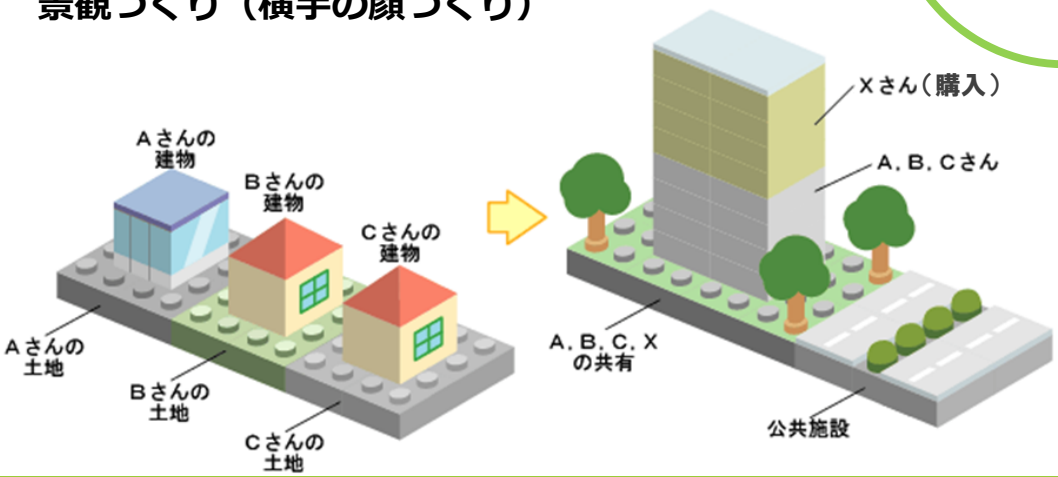
事業は、土地・建物所有者が共同で行う**民間事業**

都市機能の集約

防災性向上

景観づくり（横手の顔づくり）

横手市は
事業支援（補助金交付）と再開発ビルの床を購入し公益施設を整備

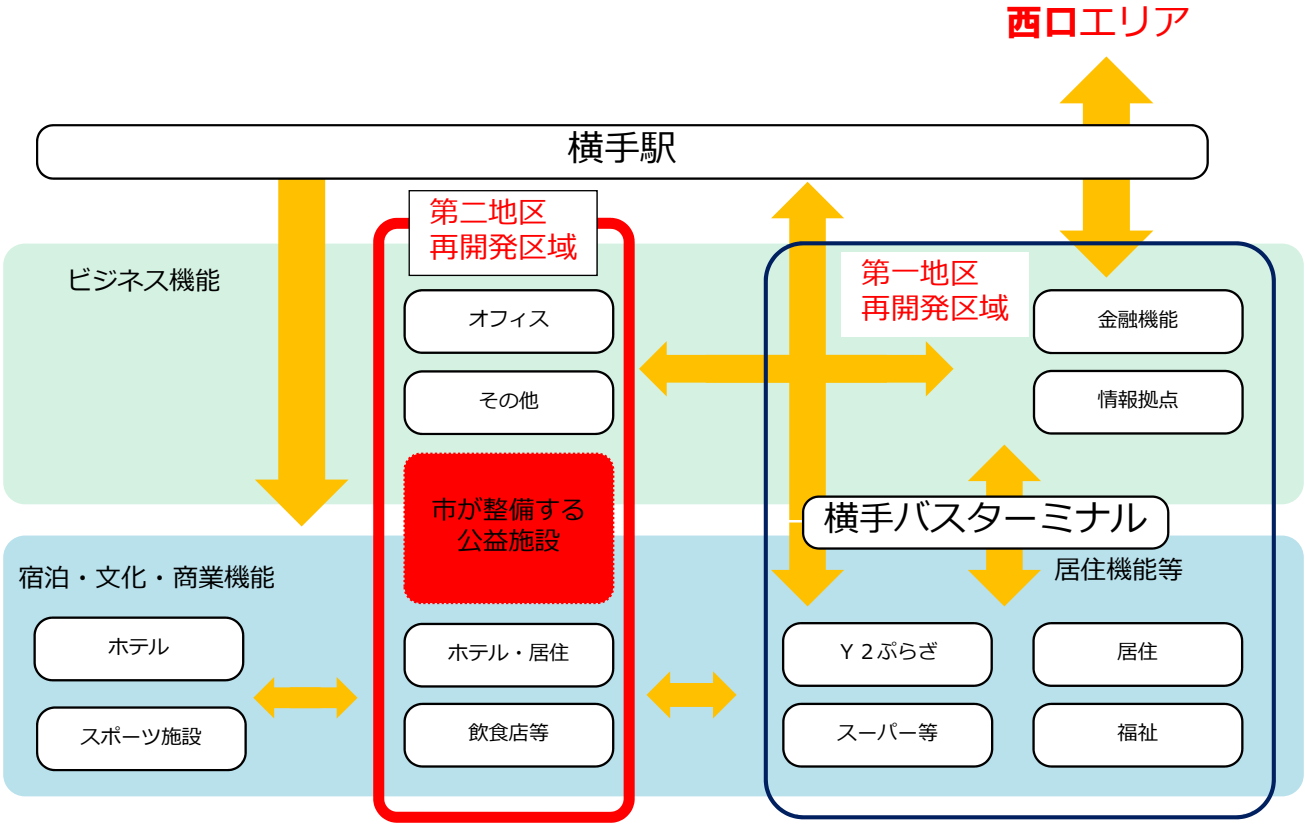


事業の流れ（第一地区の施行例）

H18.1 準備組合設立
　　事業計画作成
H19.8 再開発組合設立
　　権利調整・確定
　　建物設計書作成
H20.5 解体工事着手
H21.1 建築工事開始
H23.3 建築工事終了

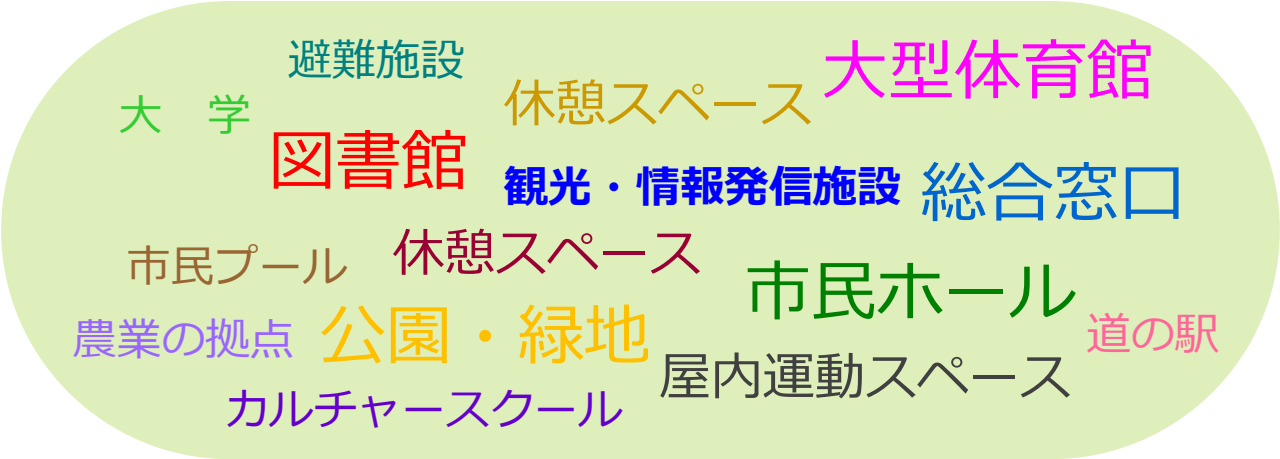
人を呼びこむ空間に

横手駅東口への公益施設整備



公益施設整備の検討

平成30年5～7月　市民アンケート、駅前公共施設に関するアンケート
平成30年　10月　まちづくりワークショップ



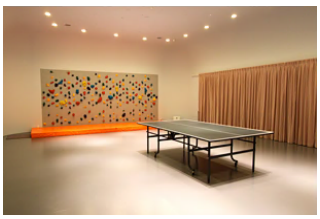
横手図書館の現状と課題

・築３５年が経過し、長寿命化を図るため必要な修繕を行う時期に直面。
・書架の間隔が狭いなど、高齢者や障がい者への配慮が不足。
・駐車スペースが4台分のみ。
・延床面積が720㎡で、全国平均1,375㎡の約半分。
・書庫も飽和状態。
・自習室がない。

高校生を中心にＹ２ぷらざと横手駅へ

駅前を活かす機能①

- 気軽に集い、快適で「みんなでひとりになれる場所」
- 安全・安心な環境で「ひとりでみんなになれる場所」



・飲食可能な空間
・コワーキングスペース
・ミーティングルーム
・空き時間の有効活用
・軽運動もできるオープンスペース など

駅前を活かす機能②

ひと × 交通 × 経済活動

・Ｙ２ぷらざ　31万人
＋
・民間施設等
＋
・横手図書館　6.7万人

さらに向上

- 44.7万人が乗車する横手駅
- 「55.9万人が利用する路線バス」のターミナル
- 「4.5万人が利用する循環バス」の起点

※利用者数は年間

利便性の向上と波及効果

スケジュール（案）と大まかな事業費

スケジュール(案)

年度	主な内容
H31	準備組合設立 都市計画決定 事業計画認可
H32	再開発組合設立 建物設計 権利変換計画認可
H33～ H34	全ての建物解体 再開発ビル建設
H35	再開発組合解散 公益施設オープン

再開発事業に係る市想定負担額（ H31.1現在 ）

			概算額	備考
組合事業費			約114億円	
	うち市関連事業費		約67億円	
		国県補助金	約33億円	
		市負担額	約34億円	
		市補助金	約11億円	
		公益施設取得費等	約20億円	施設備品含む 立体駐車場含む
		周辺施設整備費	約３億円	
財源内訳	市負担額		約34億円	
		合併特例債	約32.3億円	
		一般財源	約1.7億円	

皆さんのご意見をお聞かせください

○市街地再開発事業について

○駅前に必要な公益施設や公益機能について

○図書館の整備について